

中国における外国人向けの中国語教材 に出現する諺について

銭 清

1. はじめに

諺は言語素材として興味の尽きない対象であるばかりでなく、そこには長い年月にわたって受け継がれてきた庶民の知恵や価値観が込められており、言語の文化的背景を理解する上で重要な手がかりにもなる。中国語教育が担う役割については、コミュニケーションのための言語教育は言うまでもなく、近年は、文化発信の基盤としての中国語教育の重要性も語られている。諺は文化素材と言語素材の二つの側面を持っており、それらを統合した中国語教育に有効であると、筆者は考えている。中国の学校教育における国語の教科書には諺が必ず含まれているし、外国語としての中国語の教材にも重要な諺が取り上げられている。また、中国語の検定試験においても諺が出題素材として位置付けられており、毎回数件の諺が出題されている。

そこで、本稿は、中国の高等教育機関において広く使われている外国語学習者向けの『発展漢語』シリーズを用い、そこに出現する諺を抽出し、どのような諺がどの程度、どのような教材に登場するかなどを分析することによって、諺研究の一助となることを目指すものである。

2. 考察資料及び考察方法

本稿の対象として取り扱うのは、中国における外国人向けの中国語教材『発展漢語』（北京語言大学出版社 第2版 2011年）シリーズである。『発展漢語』は中国の教育部が定めた「第11次5カ年計画教材」に属し、中国高等教育機関において広く使われている。初級、中級、高級の三つのレベルがあり、それぞれさらに総合、聴解、会話、読解、作文の五つに分けられ、上下2冊で、初級総合（Ⅰ、Ⅱ）、中級総合（Ⅰ、Ⅱ）、高級総合（Ⅰ、Ⅱ）、初級会話（Ⅰ、Ⅱ）、中級会話（Ⅰ、Ⅱ）、高級会話（Ⅰ、Ⅱ）、初級聴解（Ⅰ、Ⅱ）、中級聴解（Ⅰ、Ⅱ）、高級聴解（Ⅰ、Ⅱ）、初級読解（Ⅰ、Ⅱ）、中級読解（Ⅰ、Ⅱ）、高級読解（Ⅰ、Ⅱ）、中級作文（Ⅰ、Ⅱ）、高級作文（Ⅰ、Ⅱ）からなる。そのうち、聴解の教材のみ『スクリプトと答案』、『練習と活動』の2冊がある。総28部34冊である。総合は中心的な教材で、聴解、会話、読解、作文は付属教材である。「読む」、「書く」、「聞く」、

「話す」の四技能の育成を目指した総合型中国語教科書で、そこに現れる諺は中国語教育に有益な材料を提供するものと考えられる。

考察方法としては、上述の教科書から諺を取り上げ、日本語の諺辞書の訳もしくは筆者自身の訳を付す。なお、二回以上出現するものについては、最初に出現した箇所のみを取り上げ、重複した場合は検討の対象としない。研究資料から、諺をいくつかの項目に分類し、分析していく。諺の出現率を検討するために、各項目に属する諺の数を百分率（%）で表す。

3. 『発展漢語』シリーズの各教材に現れる諺の実態

ここでは、初級、中級、高級の各教材に現れる諺を表にして考察を試みる。項目別分類の判断基準は重要で困難な問題であり、いずれの分野にあっても理論的なモデルを見いだせず、そのため常識や文化的な類似・相違など現実的な原則に準拠した。諺の捉え方の個人差・世代差は非常に大きい。時として主観的ではないかとのそしりもあるだろうが、あらゆる民俗事象の分類スキーマは多かれ少なかれ主観的である。本稿は『中国諺語大全』²（温2004）、『諺語大典』³（張2004）を参考し、大まかな分類を行う。

3.1 初級『発展漢語』の教材に現れる諺

初級の『発展漢語』は中国語学習をゼロからスタートする初心者向けの中国語教材シリーズである。次の表1は初級教材における諺の出現状況を示したものである。図1は初級『発展漢語』の各教材における諺の配分状況である。

表1 初級『発展漢語』における諺の出現状況

シリーズ	項目	諺	日本語訳	ページ
総合	生活・暮らし	1. 入乡随俗	郷に入っては郷に従え	下1
	人生・社会	1. 塞翁失马、难分祸福 2. 读万卷书、行万里路	塞翁が馬 万卷の書を読み、万里の道を行く	下240 下287
	生活・暮らし	1. 一年之计在于春，一天之计在于晨	一年の計は元旦にあり	下4
		2. 饭后百步走，活到九十九	食後百歩歩けば、九十九まで生きられる	下123
		3. 早吃好，午吃饱，晚吃少	朝はよく、昼は満腹になるまで、夜は少なめに食べる	下148
		4. 入乡随俗	郷に入っては郷に従え	下13
	人間関係	1. 在家靠父母，出门靠朋友 2. 远亲不如近邻	旅は道連れ世は情け 遠くの親類より近くの他人	下187 下40

会話	人生・社会	1. 十年树木，百年树人	十年先を思いては木を育て、百年先を思いては人を育てよ	下 135
		2. 百闻不如一见	百聞は一見に如かず	下 87
		3. 车到山前必有路	案ずるより産むが易し	下 111
		4. 吃一堑，长一智	一度つまづけばそれだけ利口になる	下 161
		5. 机不可失，时不再来	善は急げ	下 174
		6. 读万卷书，行万里路	万卷の書を読み、万里の道を行く	下 201
		7. 人心齐，泰山移	心を合わせれば、大きな力が出る	下 213
		8. 天生我材必有用	天が私という才能ある身をこの世に生んだのだから、必ずやこれを活かすところがあるはずだ	下 225
		9. 人非圣贤，孰能无过	私は神様ではない	下 237
		10. 近朱者赤，近墨者黑	朱に交われば赤くなる	下 251
		11. 三思而后行	よく考えてから行動する	下 263
		12. 千里之行，始于足下	千里の行も一歩から	下 16
		13. 有志者事竟成	精神一到何事か成らざらん	下 29
		14. 三人行必有我师	三人行えば必ず我が師あり	下 53
		15. 青出于蓝而胜于蓝	青は藍よりいでて藍より青し	下 64
		16. 一寸光阴一寸金	時は金なり	下 75
読解	生活・暮らし	1. 一年之计在于春，一天之计在于晨	一年の計は元旦にあり	下 35
		2. 上有天堂，下有苏杭	天に天国有り、地に蘇州・杭州有り	下 77
	人生・社会	1. 既来之、则安之	既にこれを来せば則ちこれを安んず	下 4
		2. 人同此心、心同此理	みな気持ちに変わりはない	下 6
		3. 有志者事竟成	志があれば、最後には必ず成し遂げられる	下 7
		4. 百闻不如一见	百聞は一見に如かず	下 12
		5. 少壮不努力、老大徒伤悲	少壮にして努力せざれば、老大になりて徒に傷悲せん	下 17
		6. 长江后浪推前浪	後輩が先輩を越えて立派になっていく	下 29
		7. 天时不如地利、地利不如人和	天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず	下 41
		8. 千里之行、始于足下	千里の行も一歩から	下 41
		9. 人无远虑、必有近忧	遠き慮り無ければ必ず近き憂有り	下 47
10. 仁者见仁、智者见智	物事の見方は人により異なる	下 54		
11. 己所不欲、勿施于人	己の欲せざる所は人に施すなかれ	下 66		

	12. 海阔凭鱼跃、天高任鸟飞	天高く鳥は自由に羽ばたく	下 72
	13. 车到山前必有路	案ずるより産むが易し	下 78
	14. 读万卷书、行万里路	万卷の書を読み、万里の道を行く	下 78
	15. 塞翁失马、难分祸福	塞翁が馬	下 80

図1 初級『発展漢語』の各教材における諺の配分状況

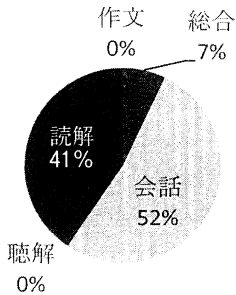


図2 初級『発展漢語』の項目別による出現率

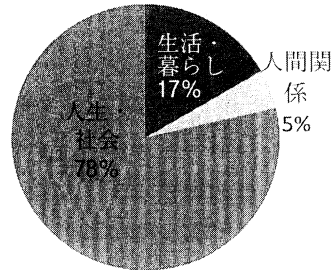


図1から分かるように、42例中、会話の教材において諺が一番多く見られる。次いで読解(17句、41%)、総合(3句、7%)の順で、出現率が低くなる。一方、聴解と作文の教材の中には一つも見られなかった。諺が出現したタイミングは下冊に集中しており、上冊には登場しなかった。ここで、更に補足の説明をしておく。読解教材の中では、諺は文章最後の「文化語句」の所に出現し、解釈もなく、講義の重点でもなかった。いわゆる豆知識のような学習者の興味を持たせる存在であった。このことから、諺はゼロからスタートする中国語初心者にとって、最初の段階ではかなり習得の難しいものであることが推測できる。会話の教材に多く現れる原因には、もともと諺が昔から伝わる言い回しをするものであるため、話しことばのほうが向いていることが挙げられよう。諺の素材や内容に関する討論や発表を通して、中国語の自然な発音やイントネーションを練習できるし、中国語の表現力を養えるだけでなく、学習者に興味を持たせることもできると考えられる。

3.2 中級『発展漢語』における諺の出現状況

中級の『発展漢語』は学習者が初級中国語を習得後、次の段階で使われる中国語教材である。次の表4は中級教材における諺の出現状況を表したものである。図3は中級『発展漢語』の各教材における諺の配分状況である。

表2 中級『発展漢語』における諺の出現状況

シリーズ	項目	諺	日本語訳	ページ

総合	生活・暮らし	1. 眼不见，心不烦 2. 嫁鸡随鸡，嫁狗随狗	知らぬが仏 鶏に嫁いだら鶏に従え	下 5 下 214
	人生・社会	1. 一个巴掌拍不响 2. 无规矩不成方圆	相手のない喧嘩はできぬ 規矩を以てせずんば、方円を成すこと能わず	下 215 下 217
会話	生活・暮らし	1. 一方水土养一方人	環境に応じて、その場所にふさわしい人が造られる]	下 121
	人生・社会	1. 旧的不去、新的不来	古いのがなくならなければ、新しいのは手に入らない	上 46
		2. 站着说话不腰疼	人の痛みを思いやらないで景気のよい話をする	下 44
		3. 望子成龙、望女成凤	我が子が人に抜きん出て出世し名を成すことを願う	下 44
4. 拣了芝麻丢了西瓜		火事後の釘拾い	下 79	
5. 万事俱备只欠东风		すべて準備が整ったが決定的な要因が欠けている	下 123	
6. 百闻不如一见		百聞は一見に如かず	上 175	
7. 高不成低不就		帯に短し襷に長し	下 41	
8. 人无远虑、必有近忧		遠き慮り無ければ必ず近き憂有り	下 44	
9. 隔行如隔山		専門外の分野のことは全くわからないものだ	下 106	
10. 旁观者清、当局者迷		岡目八目	下 115	
11. 知足者常乐		足るを知れば常に心楽し	下 166	
12. 己所不欲、勿施于人		己の欲せざる所は人に施すなかれ	下 180	
13. 三人行必有我师		三人行えば必ず我が師あり	下 180	
人間関係	1. 在家靠父母、出外靠朋友 2. 远亲不如近邻	旅は道連れ世は情け 遠くの親類より近くの他人	下 1 下 134	
聴解	生活・暮らし	1. 一分钱一分货 2. 嫁鸡随鸡、嫁狗随狗 3. 天下掉馅饼 4. 儿行千里母担忧	安物買いの銭失い 鶏に嫁いだら鶏に従え 棚から牡丹餅 子供がどこに行っても母親は必ず心配してくれる	上 45 上 96 上 100 下 17
	人生・社会	1. 知足常乐 2. 失败是成功之母	足るを知れば常に心楽し 失敗は成功のもと	上 16 上 76
読解	生活・暮らし	1. 照葫芦画瓢	手本通りにまねる	上 49
	人間関係	1. 君子之交淡如水	君子の交わりは水の如し	上 80
	人生・社会	1. 塞翁失马 2. 酒香不怕巷子深	塞翁が馬 商品が良ければ宣伝しなくても消費者が求めに来る	上 46 下 37

作文	生活暮らし	1. 入郷随俗	郷に入っては郷に従え	上 131
	人生社会	1. 读万卷书行万里路 2. 酒香不怕巷子深	万卷の書を読み、万里の道を行く 商品が良ければ宣伝しなくても 消費者が求めに来る	下 69 下 131

図3 中級『発展漢語』の各教材における諺の配分状況

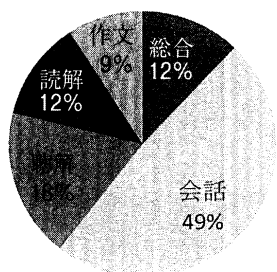
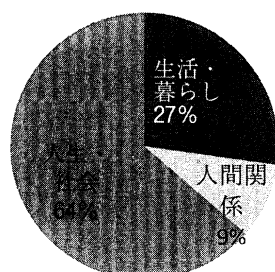


図4 中級『発展漢語』の項目別による出現率



初級と中級の『発展漢語』を比較すると、中級では、上の表2、図3のとおり、下巻は言うまでもなく、上巻よりすでに諺が現れ始める。また、聴解、作文の教材にも諺が登場し始める。更に、会話の教材における諺が一番多かったこともわかる。諺の学習は会話の授業で行われるだけでなく、総合、聴解、読解、作文にまで至っている。このことから、中級教材においては、諺は単なる興味を持たせる学習項目でなく、中国語をマスターする必須内容の一つとして重視されていることがわかる。図4の項目別で見ると、生活・暮らしに関わる諺の割合が初級より高くなり、実生活のコミュニケーションのために使えるものが増えていることがうかがえる。

3.3 上級『発展漢語』における諺の出現状況

表3 上級『発展漢語』における諺の出現状況

シリーズ	項目	諺	日本語訳	ページ
	生活・暮らし	1. 习惯成自然	慣れると当たり前になる	下 37
	人間関係	1. 四海之内皆兄弟	旅は道連れ世は情け	上 183
		1. 瘦死的骆驼比马大 2. 好心被当做驴肝肺 3. 浪子回头金不换	腐っても鯛 好意が悪意に誤解され 放蕩息子の改心は金より価値	上 78 上 144 上 52

総合	人生・社会	4. 国家兴亡匹夫有责	のあることだ 国家の興亡のような大事でも、一人一人の国民がその責任を負っている	上 80
		5. 己所不欲，勿施于人	己の欲せざる所は人に施すなかれ	上 183
		6. 死生有命，富贵在天	人の命と運(/死生や富貴)は天命で、人間にはどうすることもできないものだ	上 183
		7. 两耳不闻窗外事，一心只读圣贤书	窓の外の事には両耳をふさぎ、只一心に聖賢の書を読む]	下 52
		8. 前无古人后无来者 9. 仁者见仁，智者见智	前人未到 物事の見方は人により異なる	下 67 下 171
会話	生活・暮らし	1. 爱美之心，人皆有之	美を愛する気持ちは、誰でも持っている	上 95
	人生・社会	1. 好死不如赖活着	命あつての物種	下 16
		2. 路遥知马力，日久见人心	馬には乗ってみよ、人には添うてみよ	下 45
		3. 严师出高徒	厳格な師のもとからは優秀な弟子が出る	下 108
4. 玉不琢，不成器	玉も磨かざれば器をなさず	下 108		
聴解	生活・暮らし	1. 饭后百步走，活到九十九	食後百歩歩けば、九十九まで生きられる	上 5
	人生・社会	2. 男人有泪不轻弹	男は軽々しく泣かないものだ	上 24
		1. 三人行必有我师	三人行えば必ず我が師あり	上 3
		2. 好记性不如烂笔头	優れた記憶力よりまめに記録を残すのが良い	上 32
		3. 百闻不如一见	百聞は一見に如かず	上 49
		4. 真金不怕火炼	正直な人や意志が堅い人は、試練に耐え抜くことができる	上 49
5. 金无足赤，人无完人	無くて七癖	上 92		
6. 满招损，谦受益	自慢は知恵の行き止まり	上 102		
読解	生活・暮らし	1. 饭后百步走，活到九十九	食後百歩歩けば、九十九まで生きられる	上 5
	人生・社会	2. 男人有泪不轻弹	男は軽々しく泣かないものだ	上 24
		1. 三人行必有我师	三人行えば必ず我が師あり	上 3
		2. 好记性不如烂笔头	優れた記憶力よりまめに記録を残すのが良い	上 32
		3. 百闻不如一见	百聞は一見に如かず	上 49
		4. 真金不怕火炼	正直な人や意志が堅い人は、試練に耐え抜くことができる	上 49
5. 金无足赤，人无完人	無くて七癖	上 92		
6. 满招损，谦受益	自慢は知恵の行き止まり	上 102		

作文	人間関係	1. 一个篱笆三个桩，一个好汉三个帮	どんなに能力のある人でも周囲の助けなしにはやっていけない	下 62
	生活・暮らし	1. 有钱能使鬼推磨	地獄の沙汰も金次第	下 64
	人生・社会	1. 千里之堤，毁于蚁穴 2. 亡羊补牢未为迟 3. 失败是成功之母 4. 知足者常乐 5. 天生我材必有用 6. 哀莫大于心死 7. 虚心使人进步，骄傲使人落后 8. 良药苦口利于病，忠言逆耳利于行	千里の堤も蟻の一穴より 火事後の火の用心 失敗は成功のもと 足るを知れば常に心楽し 天が私という才能ある身をこの世に生んだのだから、必ずやこれを活かすところがあるはずだ 絶望ほど哀しいものはない 虚心は人を進歩させ、傲慢は人を退歩させる 良薬は口に苦し	上 26 下 41 下 52 下 64 下 70 下 70 下 73 下 82

図5 上級『発展漢語』の各教材における諺の配分状況

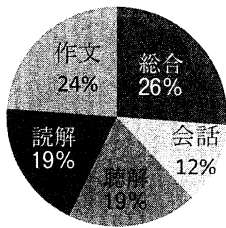


図6 上級『発展漢語』の項目別による出現率

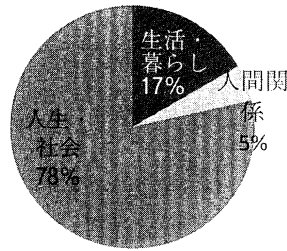


表3から分かるように、総合、聴解、読解、作文の教材における諺の数はほぼ均等に配分されていることがわかる。総合、作文の教材に現れる諺の数は初級、中級と比べ、数が倍以上に増えているのに対し、会話の教材に出る割合が低くなり、かつ数が一番少ないことがわかる。このことから、中国語学習者は上級レベルに入ると、聴解、会話、読解、作文にわたる総合的言語力がより強く求められると考えられよう。そのほか、この段階では、人生・社会に関する諺が多く見られるが、初級及び中級より難しさが増えていることがわかる。

4. おわりに

以上のように、本稿では、中国の高等教育機関において広く使われている外国語学習者向けの『発展漢語』シリーズにおいて、出現する諺を抽出し、どのような諺がどの程度、どのような教材に登場されるかなどを考察することを目的として、分析を試みた。その結果、大まかにではあるが、諺が『発展漢語』シリーズにおける出現状況はある程度明らかになった。全体として、学習段階が上がるにつれて、シリーズの各教材に現れる諺の難易度が上昇しているという印象を受けた。また、総合、聴解、作文における出現頻度が高くなっていることもわかった。このことから学習者の中国語力が向上すればするほど諺に対する認識、理解も強まると考えられよう。項目別から見た結果としては、人生・社会に関わる諺がどの学習段階でも一番多く、全体数の60%以上を占めることが明らかになった。

誌面の都合で、対象となる教材に現れた諺の難易度、どの場面でどのように使われるかなどに関する考察ができなかったが、次の機会に、本稿で得たデータを利用し、稿を重ねることとする。

注

¹ 中国ではソビエト連邦に倣って五カ年計画が導入され、現在も実施されている。5カ年計画とは中国政府が中期的な重点事業や経済運営のあり方を5年ごとに定める計画。第1次計画は53～57年に実施され、2006年から2010年までは第十一次五カ年計画である。現在は第十二次五カ年計画期である。

² 約100,000項目の諺を収録している。中国の現代諺辞書において、諺の数で一番規模の大きい諺辞典である。

³ 古今の40,000句の諺を収集している。内容としては、46テーマ、308項目に細かく分類されている。

参考文献

- 浮田三郎 (1987b) 「日本語とビルマ語の諺対照比較研究 (2) - 日本語・日本文化の教材基礎研究 -」『広島大学教育学部紀要』第2部 第36号 広島大学教育学 pp. 301-312
- 岡崎正道 (2000) 「ことわざと日本語教育」『Artes liberales』第67号岩手大学人文社会科学部 pp. 83-92
- 温 端政 (2004) 『中国諺語大全』上海辞書出版社
- 金丸邦三 (1983) 『日中諺対照集』中国俗文学研究会
- 北村孝一 (1987) 『世界ことわざ辞典』東京堂出版
- 尚学図書編集 (1982) 『故事・俗信ことわざ大辞典』小学館
- 田中清一郎 (1979) 『中国の俗諺』白水社
- 武占坤, 马国凡 (1980) 『谚语』内蒙古人民出版社
- 張 一鵬 (2004) 『諺語大典』漢語大辞典出版社
- 鄭芝淑, 飯田 秀敏 (2007) 「ハングル能力検定試験のことわざ」『ことばの科学』20 名古屋大学言語文化研究会 pp. 117-137